

XML技術の発展としてのSemanticWeb ～ XML技術者の視点から ～

INTAP セマンティックWeb委員会委員
三菱電機 情報技術総合研究所
今村 誠

imamura@isl.melco.co.jp

本発表のスタンス

- ーXML技術者の視点から、「使っていこう」という立場で、「どこに使っていくか」を考察する。
- SemanticWebの技術、応用、進め方の考え方
 - [技術] SemanticWeb を、HTMLからXMLへの流れである「コンテンツの記述能力向上」をさらに進展させるための技術と位置付ける。
 - [応用] SemanticWeb 適用により、XML利用アプリケーションの機能向上や生産性向上を目指す。
 - [進め方] 以下からスモールスタートし、ツールや利用環境を整えた上で、理想(オープン、トラストコミュニティ横断、知的検索、パーソナライズ、ユビキタスなWeb)へと進む。
 - 現状XMLアプリの機能高度化
 - イントラや特定コミュニティ内での利用
 - メタデータオントロジ作成のコストに見合う応用から

HTML、XML、そしてSemantic Web

	HTML	XML	Semantic Web
記述能力	・表示タグ ・メタタグ	自由なタグ定義 (DTD, XML Schema)	タグ間の関係 サービス間の関係
変換	表示 (CSS)	論理構造 (XSLT)	オントロジ (??)
検索	全文検索	タグ検索 (組織内、業界内)	曖昧検索 (組織間、業界横断)
サービス統合	ブラウザからプログラム呼出 (CGI)	分散プログラムの相互呼び出し (WebServices)	データやサービスフローの意味記述 (Semantic Web Services)

3

(c)2002 INTAP. All rights reserved.

Semantic Webの記述対象と効果

Semantic Webを、システム構築に必要な知識を分散記述できるようにするための基盤技術ととらえる

分野	記述対象	効果
EC	製品/サービス情報(1次,2次) 利用者プロフィール 複合サービス統合シナリオ データ変換記述(システム統合)	・利用者に応じた信頼性ある複合サービスの提供 ・サービスの追加/削除や機能変更が容易
情報共有	④ コンテンツのメタデータ (業務独立、業務特化) 業務用語間の関係 ・コンテンツのレイティング	・複数組織に分散した情報源に対して、業務に応じた最新情報が効率的に検索可

4

(c)2002 INTAP. All rights reserved.

Semantic Web利用システムのイメージ

Webサービス標準(SOAP,WSDL,UDDI)では規定しきれない応用依存の知識記述に利用していく

